

【課題】

- 自分で学習問題（めあて）を立てる等，主体的に学習に取り組もうとしている子どもとそうでない子どもの差が大きい。
- 学び合いの場面において，根拠を示しながら自己の考えを表現できていない。
- 読み，書き，計算など，基礎的学力が身に付いている子どもとそうでない子どもの差が大きい。

そこで，以下の研究テーマを掲げ，その具現化を目指していくことにした。

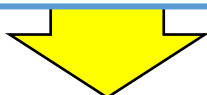
【研究テーマ】（R3年度より3年間の継続研究）
探求的な学びの実現に向けた授業改善

【3年次テーマ】
問いをもち，問題解決力を高める算数科の学習

令和5年度 目指す子どもの姿

- 1 解決すべき学習課題について，自分事の問題をもち子ども
- 2 数学的な見方・考え方を基に，思考，判断，表現し続ける子ども
- 3 学んだことを他教科や実生活に生かそうとする子ども

具体的な研究の手立て



		重点	主な学習活動	本校の重点取組事項
授業充実の3ポイント	目標の明確化		1 興味・関心を高め，問いをもたせる工夫	① 子どもの「問い」を引き出す発問や取り組むべき必然性のある課題を設定する（生活場面や既習内容と本時の学習を関連付ける。必要に応じて ICT を活用する）。 ② 「問い」を自分事として捉えさせ，学習の見通しをもたせる。
			2 課題意識の焦点化	
		◎	3 学習問題（めあて）の設定や見通しをもたせる工夫	
	山場の工夫		4 自力解決による考えの構築	③ 自力解決において導き出した自分なりの考えをもとに，ICT を活用しながらペアやグループでの学び合いを行う。 ④ 全体の学び合いでは，教師が既習の学習と関連付ける発問をしたり，共通点や相違点など比較させる発問をしたりすることで，根拠をもって表現し，自己の考えを深めることができるようにする。
		◎	5 考えの交流（学び合い）	
			6 最終的な考えの構築	
	確かめ見届け		7 学習のまとめ	⑤ 一単位時間の学習の中で習熟の時間を確保することで，学習内容の定着（ICT の活用：キュビナ）を図ることができるようにする。 ⑥ 学習して分かったことやできたこと，友達の考えのよさ，他教科や実生活に生かせるかななどを振り返らせ，価値付けることで，次時への意欲につなげたり，新たな「問い」を表出したりできるようにする。
			8 習熟	
		◎	9 振り返り（自己評価，相互評価）	

※ 「授業充実の3ポイント」の各ポイントに，具体的な重点取組事項を設定する。（最重点の学習活動は◎）